

第 202 期定時株主総会 質疑応答要旨

2022 年 6 月 25 日（土）に開催しました当行第 202 期定時株主総会において頂戴しました主なご質問および当行の回答要旨を以下のとおり紹介いたします。

1	
質問	配当性向は 20% 目標となっているが、もう少し上げられないか。
回答	今の銀行を取り巻く収益環境等を勘案し配当性向 20% の水準について決定した。 ただし、配当性向の見直しの議論は継続して検討していくこととなっており、株主意見も踏まえながら、今後も検討させていただきたい。

2	
質問	定時株主総会招集ご通知の中に会社の概要、株式、大株主状況や従業員についての情報が記載されていないが、そういったものを記載してもらえないか。
回答	現在、定時株主総会招集ご通知の記載は、法令で定められたものを中心に記載している。招集ご通知の記載内容について毎年改善を行っているが、今後も継続して見直し検討が必要と考えている。また、質問いただいた事項については当行のWEBサイトのほうで開示している。来年度から株主総会資料の電子提供制度に対応していくことになるので、お送りする書面とWEBサイトにて開示する資料のあり方について、今後銀行としての検討をしていく。

3	
質問	近年硬貨入金が各金融機関のATMでできなくなっている中で、利用者の一人としては不便に感じている。
回答	キャッシュレス化が進み、ATMの役割も変わってきている中で利用件数も減ってきている。銀行全体の流れとして、硬貨取扱いの取りやめがコストを下げる効果につながっている。しかしお客さまの利便性も検討をしていかななくてはならない。貴重なご意見として受け止めさせていただきたい。

4	
質問	行員の副業についてどう思うのか。
回答	まだ始めてはいないが検討はしている。他の会社の仕事をすることはプラスになると考えている。ただ、本業とのバランスが必要であるため、解禁までには至っていない。まずは自分の担当とは違う仕事する、社内副業という形での希望や提案を募ることから始めている。

5	
質問	損益状況について説明してほしい。
回答	今期の決算については、昨年10月に福邦銀行を連結子会社化したことが大きく影響している。連結決算としては、福邦銀行子会社化に伴う特別利益として「負ののれん」46億円発生した。単体決算としては、コロナの影響を受けたお客さまをしっかりと支援していくために予防的な引当を多めに行った。またFプロジェクトでの店舗施策方針に基づき減損処理を一括して行った。その他米国債金利が3月に急上昇し含み損が発生し処分を行った。以上の3つの大きな理由により今回の決算となった。

6	
質問	福邦銀行を子会社化してのメリット、デメリットをどのように考えているのか。
回答	福邦銀行の子会社化のメリットを出すために一番大事なのは、人事交流・人心融和であり、福邦銀行職員、福井銀行職員がしっかりと協力できる関係をつくることである。また、今後も両行それぞれの窓口があり、Fプロジェクトはその点に特徴がある。それぞれの銀行の特徴・良さを生かしながら、2ブランドを維持していき、一方で本部管理部門は統合していくことでメリットを創出していきたい。

以上